

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	横浜医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数 又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復師科	夜・通信	71 単位	9 単位	
	柔道整復師科	夜・通信	71 単位	6 単位	
医療専門課程	鍼灸師科	夜・通信	65 単位	9 単位	
	鍼灸師科	夜・通信	65 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバス（講義計画書）に実務経験の有無を明記し、本校 WEB サイトの情報公開ページにおいて公開する。
<https://www.yokohama-isen.ac.jp/publication.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	横浜医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページアドレス「 http://www.heisei-iryō.ac.jp/gakuen/disclosure.html 」の令和元年度事業報告書に記載「12ページ参照」
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社エビススポーツ マッサージ社長	2019.4.1 ~ 2021.3.31	企画・調整
非常勤	公益社団法人全国柔整鍼 灸協会監事・学校法人福寿 会理事	2020.4.1 ~ 2022.3.31	産学連携
(備考)			

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	横浜医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>①学則に記載されている授業科目、授業時間数(単位時間数)等(以下、授業科目等という)については学校生活における諸注意・諸規則を記載した「学生のしおり」にて公表している。</p> <p>②本校は前期・後期の2学期制のため、各学期の開始時に授業科目等を記載した授業計画(シラバス)を作成し配布している。</p> <p>③シラバスの項目としては(1)担当講師(2)科目名(3)実施年次・実施学期(4)講義形式(5)一般目標(General Instructional Objective:GIO)(6)授業計画・内容(Specific Behavioral Objectives:SBOs)(7)学習のキーワード(8)成績評価(9)使用教科書(10)受講上の注意が記載されている。</p> <p>④シラバスの内容については副校長、学科長および教学支援センター長を中心とした複数人のメンバーが精査し、校長の承認の下、授業担当者とその授業方針について調整を行った上で、授業を実施している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>配当学年(学期)毎に学生に冊子として配布し、本校のWEBサイトでも公開する。</p> <p>https://www.yokohamaisen.ac.jp/publication.html</p> <p>また、一般の希望者には学校備付けの「シラバス」を閲覧させる。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>①授業計画(シラバス)において成績評価に関する事項を予め公表している。</p> <p>②成績評価及び単位認定は原則として講義終了後の試験(筆記試験および実技試験等)で評価し、その合格基準到達者に対して単位を与えている。</p> <p>③評価試験の受験資格として授業出席要件を学則に定めている(後述)また、この基準を満たさなかった者は評価試験を受験できないこととしている。</p> <p>(座学・演習:出席日数の2/3以上の出席、実技:4/5以上の出席、臨床実習:全出席)</p> <p>④成績の管理および評価試験の実施・運営においては「定期試験・成績管理」担当者を配置してその管理・運営を実施している。</p> <p>⑤出欠席状況は学生の学習意欲の指標の一つと位置づけている。そこで学年担当者を中心に、各授業時間の出欠席を呼名で確認することにより欠席者を把握、その状況を聴取する面談及び指導を適宜実施している。</p> <p>⑥試験実施後には学生に対し、学修の狙いやその到達度を再認識させる意味合いにおいてフィードバックを実施している。具体的には評価試験の配布および解説、質疑応答の時間を設けている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>①授業 基づいて5段階の成績評価を実施している。 100点～90点：秀 89点～80点：優 79点～70点：良 69点～60点：可 59点以下：不可</p> <p>②GPA(Grade Point Average):成績を5段階で評価し、60点(可)以上のそれぞれに対し4・3・2・1というグレードポイントを与え、各科目のグレードポイントに総単位数をかけた加重平均により算出する。</p> <p>③成績分布表記:GPAで学科内(昼間・夜間別)の順位を求め、上位から4分の1ずつに属している場合をS、A、Bとし、下位4分の1に属している場合をCとする。 ※成績分布Cは、成績に関する面談対象としている。 ※学期末に成績表を1部は本人に渡し、1部は保護者(保証人)に通知する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>「学生のしおり」にその評価および方法を明記し公表する。また、一般の希望者には学校備付けの「学生のしおり」を閲覧させる。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校における卒業認定方針(ディプロマポリシー)を示す。</p> <p>①本校で定める受講すべき授業に出席しその評価を受けている。</p> <p>②各学年に配当された授業科目の単位をすべて修得している。 本校の定めるカリキュラムでは以下の修得すべき課題について様々な形式で試験等の評価を実施している。これらの評価を受け、一定程度以上の修得がなされたと判断された者が本校の卒業認定となる。</p> <p>(1)知識・技能 例)基礎医学の知識を用いて患者の現病態を把握できる。基本的な治療技術を修得し安全に実施できる。</p> <p>(2)思考力・判断力・表現力等の能力 例)身につけた知識で想定すべき鑑別診断(除外診断)ができる。適当と思われる治療法を選択できる。患者に適切な他覚所見の説明ができる。</p> <p>(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 例)施術チーム内または患者との適切なコミュニケーションがとれる。施術に関する適切な報告・連絡・相談ができる。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>「学生のしおり」にその方針および方法を明記し公表し、当該学年へのオリエンテーション時に説明する。また、一般の希望者には学校備付けの「学生のしおり」を閲覧させる。</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	横浜医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.heisei-iryō.ac.jp/gakuen/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.heisei-iryō.ac.jp/gakuen/disclosure.html
財産目録	http://www.heisei-iryō.ac.jp/gakuen/disclosure.html
事業報告書	http://www.heisei-iryō.ac.jp/gakuen/disclosure.html
監事による監査報告（書）	http://www.heisei-iryō.ac.jp/gakuen/disclosure.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	柔道整復師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2750/123 単位時間/単位	1200 単位時間/79 単位	600 単位時間/20 単位	180 単位時間/4 単位	0 単位時間/0 単位	770 単位時間/20 単位
			2750 単位時間/123 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		157人	0人	11人	12人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）
①学則に記載されている授業科目、授業時間数（単位時間数）等（以下、授業科目等という）については学校生活における諸注意・諸規則を記載した「学生のしおり」にて公表している。
②本校は前期・後期の2学期制のため、各学期の開始時に授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成し配布している。
③シラバスの項目としては(1)担当講師(2)科目名(3)実施年次・実施学期(4)講義形式(5)一般目標（General Instructional Objective：GIO）(6)授業計画・内容（Specific Behavioral Objectives：SBOs）(7)学習のキーワード(8)成績評価(9)使用教科書(10)受講上の注意が記載されている。
④シラバスの内容については副校長、学科長および教学支援センターを中心とした複数人のメンバーが精査し、校長の承認の下、授業担当者とその授業方針について調整を行った上で、授業を実施している。
成績評価の基準・方法

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>①授業計画(シラバス)において成績評価に関する事項を予め公表している。</p> <p>②成績評価及び単位認定は原則として講義終了後の試験(筆記試験および実技試験等)で評価し、その合格基準到達者に対して単位を与えている。</p> <p>③評価試験の受験資格として授業出席要件を学則に定めている(後述)。また、この基準を満たさなかった者は評価試験を受験できないこととしている。</p> <p>(座学・演習:出席日数の2/3以上の出席、実技:4/5以上の出席、臨床実習:全出席)</p> <p>④成績の管理および評価試験の実施・運営においては「定期試験・成績管理」担当者を配置してその管理・運営を実施している。</p> <p>⑤出欠席状況は学生の学習意欲の指標の一つと位置づけている。そこで学年担当者を中心に、各授業時間の出欠席を呼名で確認することにより欠席者を把握、その状況を聴取する面談及び指導を適宜実施している。</p> <p>⑥試験実施後には学生に対し、学修の狙いやその到達度を再認識させる意味合いにおいてフィードバックを実施している。具体的には評価試験の配布および解説、質疑応答の時間を設けている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校における卒業認定方針(ディプロマポリシー)を示す。</p> <p>①本校で定める受講すべき授業に出席しその評価を受けている。</p> <p>②各学年に配当された授業科目の単位をすべて修得している。</p> <p>本校の定めるカリキュラムでは以下の修得すべき課題について様々な形式で試験等の評価を実施している。これらの評価を受け、一定程度以上の修得がなされたと判断された者が本校の卒業認定となる。</p> <p>(1)知識・技能 例)基礎医学の知識を用いて患者の現病態を把握できる。基本的な治療技術を修得し安全に実施できる。</p> <p>(2)思考力・判断力・表現力等の能力 例)身につけた知識で想定すべき鑑別診断(除外診断)ができる。適当と思われる治療法を選択できる。患者に適切な他覚所見の説明ができる。</p> <p>(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 例)施術チーム内または患者との適切なコミュニケーションがとれる。施術に関する適切な報告・連絡・相談ができる。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>学年担当制度を採用して、複数の学年担当教員が学生との面談を積極的に行い修学上の種々の問題(勉学の問題、心理的な問題、経済的な問題など)の解決に取り組んでいる。学期の最初、長期休暇の後、また、必要があると思われる場合には、学年担当教員に加えて学科長、事務職員、あるいは保護者を交えて面談を行い、問題の解決を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	2人 (5.7%)	22人 (62.9%)	11人 (31.4%)
(主な就職、業界等) 接骨院・整骨院・老人保健施設			

<p>(就職指導内容)</p> <p>年に2回、就職相談会を実施、学内掲示板に求人票を掲示し、就職先紹介随時実施</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>柔道整復師(厚生労働大臣免許)</p>
<p>(備考)(任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
165人	20人	12.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、学業不振、家事都合、経済的理由</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>入学前より本校で取得できる資格や学習量に関して適切な情報提供を行い、入学前と入学後の差異をなくすよう努めている。教員と学生が必要かつ十分なコミュニケーションを図り、退学に至る前の早期段階で退学を回避するよう取り組んでいる。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	柔道整復師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	2750/123 単位時間/単位	1200 単位時 間/79 単位	600単 位時間 /20単 位	180単 位時間 /4単 位	0単位 時間/0 単位	770単 位時間 /20単 位
			2750 単位時間/123 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		76人	0人	11人	15人	26人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>①学則に記載されている授業科目、授業時間数（単位時間数）等（以下、授業科目等という）については学校生活における諸注意・諸規則を記載した「学生のしおり」にて公表している。</p> <p>②本校は前期・後期の2学期制のため、各学期の開始時に授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成し配布している。</p> <p>③シラバスの項目としては(1)担当講師(2)科目名(3)実施年次・実施学期(4)講義形式(5)一般目標（General Instructional Objective：GIO）(6)授業計画・内容（Specific Behavioral Objectives：SBOs）(7)学習のキーワード(8)成績評価(9)使用教科書(10)受講上の注意が記載されている。</p> <p>④シラバスの内容については副校長、学科長および教学支援センターを中心とした複数人のメンバーが精査し、校長の承認の下、授業担当者とその授業方針について調整を行った上で、授業を実施している。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <p>①授業計画（シラバス）において成績評価に関する事項を予め公表している。</p> <p>②成績評価及び単位認定は原則として講義終了後の試験（筆記試験および実技試験等）で評価し、その合格基準到達者に対して単位を与えている。</p> <p>③評価試験の受験資格として授業出席要件を学則に定めている（後述）。また、この基準を満たさなかった者は評価試験を受験できないこととしている。</p> <p>（座学・演習：出席日数の2/3以上の出席、実技：4/5以上の出席、臨床実習：全出席）</p> <p>④成績の管理および評価試験の実施・運営においては「定期試験・成績管理」担当者を配置してその管理・運営を実施している。</p> <p>⑤出欠席状況は学生の学習意欲の指標の一つと位置づけている。そこで学年担当者を中心に、各授業時間の出欠席を呼名で確認することにより欠席者を把握、その状況を聴取する面談及び指導を適宜実施している。</p> <p>⑥試験実施後には学生に対し、学修の狙いやその到達度を再認識させる意味合いにおいてフィードバックを実施している。具体的には評価試験の配布および解説、質疑応答の時間を設けている。</p>							
卒業・進級の認定基準							
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p>本校における卒業認定方針（ディプロマポリシー）を示す。</p> <p>①本校で定める受講すべき授業に出席しその評価を受けている。</p> <p>②各学年に配当された授業科目の単位をすべて修得している。</p> <p>本校の定めるカリキュラムでは以下の修得すべき課題について様々な形式で試験等の評価を実施している。これらの評価を受け、一定程度以上の修得がなされたと判断された者が本校の卒業認定となる。</p>							

(1)知識・技能 例)基礎医学の知識を用いて患者の現病態を把握できる。基本的な治療技術を修得し安全に実施できる。
(2)思考力・判断力・表現力等の能力 例)身につけた知識で想定すべき鑑別診断(除外診断)ができる。適当と思われる治療法を選択できる。患者に適切な他覚所見の説明ができる。
(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 例)施術チーム内または患者との適切なコミュニケーションがとれる。施術に関する適切な報告・連絡・相談ができる。
学修支援等
(概要) 学年担当制度を採用して、複数の学年担当教員が学生との面談を積極的に行い修学上の種々の問題(勉学の問題、心理的な問題、経済的な問題など)の解決に取り組んでいる。学期の最初、長期休暇の後、また、必要があると思われる場合には、学年担当教員に加えて学科長、事務職員、あるいは保護者を交えて面談を行い、問題の解決を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0.0%)	15人 (78.9%)	4人 (21.1%)
(主な就職、業界等) 接骨院・整骨院・老人保健施設			
(就職指導内容) 年に2回、就職相談会を実施、学内掲示板に求人票を掲示し、就職先紹介随時実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師(厚生労働大臣免許)			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62人	9人	14.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、家事都合、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前より本校で取得できる資格や学習量に関して適切な情報提供を行い、入学前と入学後の差異をなくすよう努めている。教員と学生が必要かつ十分なコミュニケーションを図り、退学に至る前の早期段階で退学を回避するよう取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	鍼灸師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2680/116 単位時間/単位	1270 単位時 間/76 単位	630 単 位時間 /21 単 位	180 単 位時間 /4 単 位	0 単位 時間/0 単位	600 単 位時間 /15 単 位
			2680 単位時間/116 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		121人	1人	11人	6人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>①学則に記載されている授業科目、授業時間数（単位時間数）等（以下、授業科目等という）については学校生活における諸注意・諸規則を記載した「学生のしおり」にて公表している。</p> <p>②本校は前期・後期の2学期制のため、各学期の開始時に授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成し配布している。</p> <p>③シラバスの項目としては(1)担当講師(2)科目名(3)実施年次・実施学期(4)講義形式(5)一般目標（General Instructional Objective：GIO）(6)授業計画・内容（Specific Behavioral Objectives：SBOs）(7)学習のキーワード(8)成績評価(9)使用教科書(10)受講上の注意が記載されている。</p> <p>④シラバスの内容については副校長、学科長および教学支援センターを中心とした複数人のメンバーが精査し、校長の承認の下、授業担当者とその授業方針について調整を行った上で、授業を実施している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <p>①授業計画（シラバス）において成績評価に関する事項を予め公表している。</p> <p>②成績評価及び単位認定は原則として講義終了後の試験（筆記試験および実技試験等）で評価し、その合格基準到達者に対して単位を与えている。</p> <p>③評価試験の受験資格として授業出席要件を学則に定めている（後述）。また、この基準を満たさなかった者は評価試験を受験できないこととしている。</p> <p>（座学・演習：出席日数の2/3以上の出席、実技：4/5以上の出席、臨床実習：全出席）</p> <p>④成績の管理および評価試験の実施・運営においては「定期試験・成績管理」担当者を配置してその管理・運営を実施している。</p> <p>⑤出欠席状況は学生の学習意欲の指標の一つと位置づけている。そこで学年担当者を中心に、各授業時間の出欠席を呼名で確認することにより欠席者を把握、その状況を聴取する面談及び指導を適宜実施している。</p> <p>⑥試験実施後には学生に対し、学修の狙いやその到達度を再認識させる意味合いにおいてフィードバックを実施している。具体的には評価試験の配布および解説、質疑応答の時間を設けている。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p>本校における卒業認定方針（ディプロマポリシー）を示す。</p> <p>①本校で定める受講すべき授業に出席しその評価を受けている。</p> <p>②各学年に配当された授業科目の単位をすべて修得している。</p> <p>本校の定めるカリキュラムでは以下の修得すべき課題について様々な形式で試験等の評価を実施している。これらの評価を受け、一定程度以上の修得がなされたと判断</p>	

<p>された者が本校の卒業認定となる。</p> <p>(1)知識・技能 例)基礎医学の知識を用いて患者の現病態を把握できる。基本的な治療技術を修得し安全に実施できる。</p> <p>(2)思考力・判断力・表現力等の能力 例)身につけた知識で想定すべき鑑別診断(除外診断)ができる。適当と思われる治療法を選択できる。患者に適切な他覚所見の説明ができる。</p> <p>(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 例)施術チーム内または患者との適切なコミュニケーションがとれる。施術に関する適切な報告・連絡・相談ができる。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>学年担当制度を採用して、複数の学年担当教員が学生との面談を積極的に行い修学上の種々の問題(勉学の問題、心理的な問題、経済的な問題など)の解決に取り組んでいる。学期の最初、長期休暇の後、また、必要があると思われる場合には、学年担当教員に加えて学科長、事務職員、あるいは保護者を交えて面談を行い、問題の解決を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	2人 (10.0%)	16人 (80.0%)	2人 (10.0%)
(主な就職、業界等) 鍼灸院・老人保健施設、美容業界			
(就職指導内容) 年に2回、就職相談会を実施、学内掲示板に求人票を掲示し、就職先紹介随時実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) はり師(厚生労働大臣免許) きゅう師(厚生労働大臣免許)			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
106人	16人	15.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、家事都合、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前より本校で取得できる資格や学習量に関して適切な情報提供を行い、入学前と入学後の差異をなくすよう努めている。教員と学生が必要かつ十分なコミュニケーションを図り、退学に至る前の早期段階で退学を回避するよう取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	鍼灸師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	2680/116 単位時間/単位	1270 単位時 間/76 単位	630 単 位時間 /21 単 位	180 単 位時間 /4 単 位	0 単位 時間/0 単位	600 単 位時間 /15 単 位
			2680 単位時間/116 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		39人	0人	11人	6人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）</p> <p>①学則に記載されている授業科目、授業時間数（単位時間数）等（以下、授業科目等という）については学校生活における諸注意・諸規則を記載した「学生のしおり」にて公表している。</p> <p>②本校は前期・後期の2学期制のため、各学期の開始時に授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成し配布している。</p> <p>③シラバスの項目としては(1)担当講師(2)科目名(3)実施年次・実施学期(4)講義形式(5)一般目標（General Instructional Objective：GIO）(6)授業計画・内容（Specific Behavioral Objectives：SBOs）(7)学習のキーワード(8)成績評価(9)使用教科書(10)受講上の注意が記載されている。</p> <p>④シラバスの内容については副校長、学科長および教学支援センターを中心とした複数人のメンバーが精査し、校長の承認の下、授業担当者とその授業方針について調整を行った上で、授業を実施している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <p>①授業計画（シラバス）において成績評価に関する事項を予め公表している。</p> <p>②成績評価及び単位認定は原則として講義終了後の試験（筆記試験および実技試験等）で評価し、その合格基準到達者に対して単位を与えている。</p> <p>③評価試験の受験資格として授業出席要件を学則に定めている（後述）。また、この基準を満たさなかった者は評価試験を受験できないこととしている。</p> <p>（座学・演習：出席日数の2/3以上の出席、実技：4/5以上の出席、臨床実習：全出席）</p> <p>④成績の管理および評価試験の実施・運営においては「定期試験・成績管理」担当者を配置してその管理・運営を実施している。</p> <p>⑤出欠席状況は学生の学習意欲の指標の一つと位置づけている。そこで学年担当者を中心に、各授業時間の出欠席を呼名で確認することにより欠席者を把握、その状況を聴取する面談及び指導を適宜実施している。</p> <p>⑥試験実施後には学生に対し、学修の狙いやその到達度を再認識させる意味合いにおいてフィードバックを実施している。具体的には評価試験の配布および解説、質疑応答の時間を設けている。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p>本校における卒業認定方針（ディプロマポリシー）を示す。</p> <p>①本校で定める受講すべき授業に出席しその評価を受けている。</p> <p>②各学年に配当された授業科目の単位をすべて修得している。</p> <p>本校の定めるカリキュラムでは以下の修得すべき課題について様々な形式で試験等の評価を実施している。これらの評価を受け、一定程度以上の修得がなされたと判断</p>	

<p>された者が本校の卒業認定となる。</p> <p>(1)知識・技能 例)基礎医学の知識を用いて患者の現病態を把握できる。基本的な治療技術を修得し安全に実施できる。</p> <p>(2)思考力・判断力・表現力等の能力 例)身につけた知識で想定すべき鑑別診断(除外診断)ができる。適当と思われる治療法を選択できる。患者に適切な他覚所見の説明ができる。</p> <p>(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 例)施術チーム内または患者との適切なコミュニケーションがとれる。施術に関する適切な報告・連絡・相談ができる。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>学年担当制度を採用して、複数の学年担当教員が学生との面談を積極的に行い修学上の種々の問題(勉学の問題、心理的な問題、経済的な問題など)の解決に取り組んでいる。学期の最初、長期休暇の後、また、必要があると思われる場合には、学年担当教員に加えて学科長、事務職員、あるいは保護者を交えて面談を行い、問題の解決を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	1人 (14.3%)	6人 (85.7%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 鍼灸院・老人保健施設、美容業界			
(就職指導内容) 年に2回、就職相談会を実施、学内掲示板に求人票を掲示し、就職先紹介随時実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) はり師(厚生労働大臣免許) きゅう師(厚生労働大臣免許)			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	2人	5.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、家事都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前より本校で取得できる資格や学習量に関して適切な情報提供を行い、入学前と入学後の差異をなくすよう努めている。教員と学生が必要かつ十分なコミュニケーションを図り、退学に至る前の早期段階で退学を回避するよう取り組んでいる。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復師科	240,000 円	840,000 円	440,000 円	入学年度のみ学友会費 50,000 円
鍼灸師科	240,000 円	840,000 円	440,000 円	入学年度のみ学友会費 50,000 円
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
・URL : https://www.yokohama-isen.ac.jp/publication.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針 「学校教育法」および「専修学校における職業実践専門課程の認定に関する規定」に則り、教育の質保証・向上を図り、また社会に対する説明責任を然るべく果たしていく観点から、自己評価および学校関係者評価を適切に実施する。 ・評価項目 ① 教育理念・目的・育成人材像 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果 ⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生の募集と受入れ ⑧財務 ⑨法令等の遵守 ⑩社会貢献・地域貢献 ・評価委員会の構成 委員の定数：4 名 選出区分：企業等委員・大学教員・卒業生 ・評価結果の活用方法 教職員に広く周知し、それぞれの部門（教務、広報、総務）における問題点の把握、改善の方向性と対応、将来構想などの検討に大きく寄与している。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
旗の台駅前整骨院 全国柔整鍼灸協同組合 総代	2020年4月1日～ 2021年3月31日	企業等委員
芝東洋院 院長 東京鍼灸マッサージ協同組合 専務理事	2020年4月1日～ 2021年3月31日	企業等委員
横浜医療専門学校 誠治会 (同窓会) 副会長	2020年4月1日～ 2021年3月31日	卒業生
北海道大学名誉教授	2020年4月1日～ 2021年3月31日	有識者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・URL : https://www.yokohama-isen.ac.jp/publication.html ・2019 年度に係る学校関係者評価を 2020 年 8 月に実施し、ホームページにて公表する予定である。 		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
・URL : https://www.yokohama-isen.ac.jp/